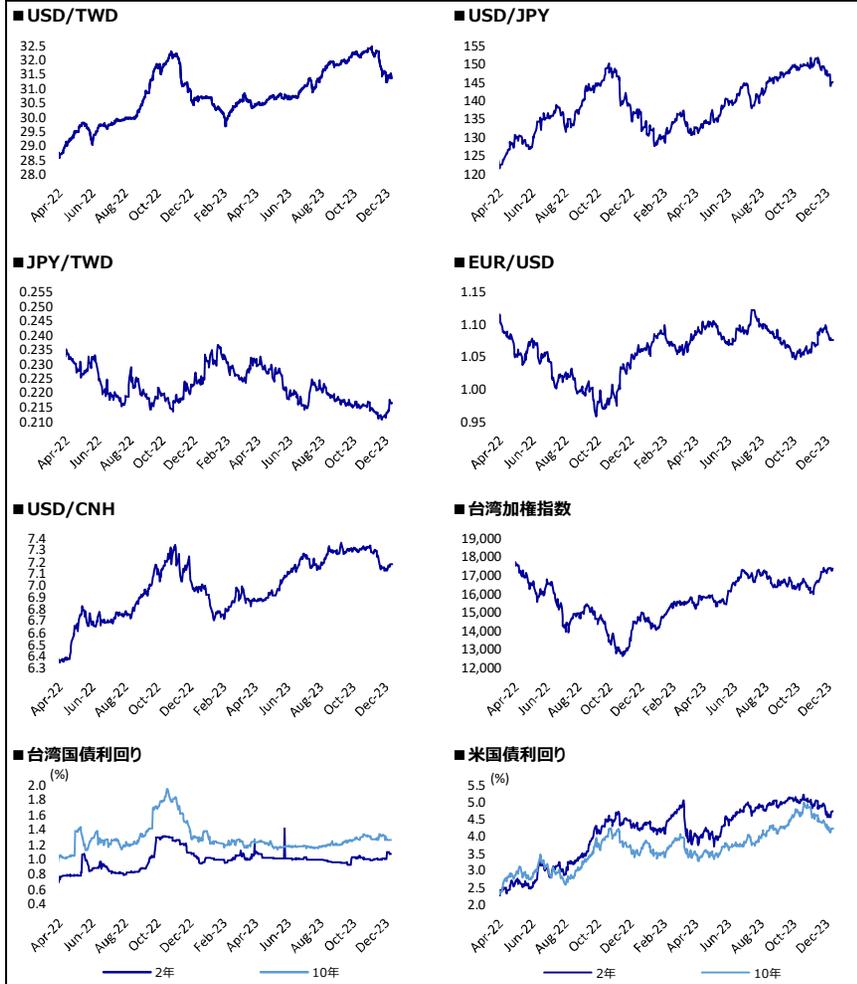


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初12/4は、前週末米金利が低下していたことを受けて、ギャップダウンして31.400でオープン。寄り付きからドル売りが優勢となり一時31.310まで下落した。午後に入ると外国人投資家による台湾株売りが見られたことで台湾ドル売りが優勢となり、31.40近辺まで上昇した。12/5は、前日米国株式市場でハイテク株が下落していたことを受けてリスクセンチメントが悪化し、台湾ドル売りが優勢な展開となり31.40台後半まで上昇した。12/6は週末に米11月雇用統計の発表を控え、動意に欠ける展開となり、31.50を挟み揉み合いの推移。12/7は前日発表された台湾11月CPIの結果が前回対比弱い結果となったことを受けて、台湾ドル売りが優勢な展開となり、一時31.561まで上昇。その後は輸出業者によるドル売りが見られたことで、31.50近辺まで下落した。12/8は前日海外時間に米金利が低下していたことを背景に、ドル売りが優勢な展開に。また、外国人投資家による台湾株売りが見られていた他、輸出企業によるドル売りが見られたことで、31.30台まで下落した。最終的には前週比0.3%ドル安台湾ドル高の31.374で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は54.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初12/4は146.73でオープン後、FOMC会合を来週に控え、過度な利下げ織り込みを剥落させる内容になるとの思惑から米金利が上昇していたことを受けて、147円台前半まで上昇した。12/5は米10月求人数が2021年初来の低水準となったことを受け146円台半ばまで下落したが、すぐに買い戻され147円近辺で揉み合いの推移。12/6は動意に乏しく、147円台前半で揉み合いの推移となった。12/7には参議院財政金融委員会半期報告において、日銀の植田総裁より「年末から来年にかけて一段とチャレンジになる」との発言が聞かれ、市場で日銀の政策転換を巡る憶測が過熱。円金利が上昇し、円買いが優勢な展開となり、一時141.60まで急速に下落した。引けにかけては下げ幅を縮小し、144円台での推移となった。12/8は円金利が上昇する中円買いが優勢となり、142円台半ばまで下落。その後、米11月雇用統計が市場予想対比堅調な結果となったことを受けて米金利が上昇に転じると、ドル買いが優勢となり145円近辺まで上昇した。最終的には前週比1.3%ドル安円高の144.95で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.350-31.650
今週は底堅い推移を見込む。過度に低下した米金利がFOMCを経て上昇に転じる場合、ドルが買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：144.50-146.50
今週は揉み合いの推移を見込む。13日に控えるFOMC会合で過度な米国利下げ織り込みに対して否定的な発言が聞かれる場合、ドル買いの圧力が強まる一方で、19日に控える日銀金融政策決定会合に向けては金融政策展開への思惑から円買いの圧力も強まりやすく、売り買い交錯となるであろう。

今週の予定

12/11 (MON)	
12/12 (TUE)	米11月CPI
12/13 (WED)	日第4四半期日銀短観、FOMC
12/14 (THU)	台湾金融政策決定会合、ECB理事会、米11月輸入物価
12/15 (FRI)	米11月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。